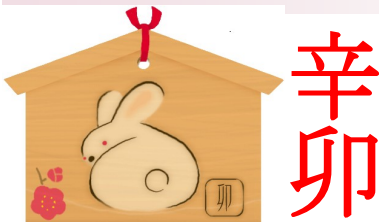


山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

平成23年 住職年頭挨拶 謹賀新年



辛卯

「春立つや
愚の上に又
愚にかへる」
小林一茶（江戸時代・俳人）



平成23年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/3 大節分会
- 2/15 釈尊涅槃会
- 3/13 大般若会大施食会法要
- 3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- 7月下旬 第30回子供禅の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 10/15 檀信徒参拝研修旅行
- 12/8 釈尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会

- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・琴教室・華道教室
- ※宗務所執務日は月水金曜

最澄師は極愚、親鸞師は愚禿、良寛師は大愚、と「愚」を号に付けておられます。

自らを愚と、しっかり表明出来る事は相当に偉いことです。

我々は往々にして、「自分は賢者である」と誇示しがちでございます。愚の自覚は、歳を取れば取る程、自ずから素直に出てきます。「私は愚かです」と謙虚な人ほど人間としての深みが増してきます。

自己を愚か者であるという自覚に達するまで、まだまだ歳月が掛りそうでございます。

一朝一夕には、一茶の境涯には辿り着きそうにもありませんが、その姿勢を忘れることなく歩み続けたいものです。

平成23年 年回表

一周忌	平成二十二年	二十三回忌	昭和六十四年 平成元年
三回忌	平成二十一年	二十七回忌	昭和六十年
七回忌	平成十七年	三十三回忌	昭和五十四年
十三回忌	平成十一年	五十回忌	昭和三十七年
十七回忌	平成七年	百回忌	明治四十五年 大正元年

- ※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
- ※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。
(但し、五十回忌・百回忌を除く)

だるまだいし だいげんしゅりぼさつ

達磨大師・大権修理菩薩 両坐像修復完了

着々と進んでおります仁叟寺仏像修復事業。御本尊様は一昨年秋より修復作業に入っております。

今回、江戸時代初期の作と伝えられております、達磨大師・大権修理菩薩両坐像の修復が昨秋に完了いたしましたこと、茲に御報告申し上げます。右写真に修復前後の様子を記載いたしました。



仁叟寺本堂須彌壇両脇に祀られて ↑ (左) 達磨大師坐像 (右) 大権修理菩薩坐像 いる両坐像。お参りに見えられる機会がございましたら、是非ご覧いただければと思っております。

えいさんかほうえい

第一回吉井地域詠讚歌奉詠大会開催



↑ (左) 仁叟寺講龍源寺講合同奉詠風景 (右) 全林寺講・恩行寺講の皆様方

昨年11月22日に第一回目となります「吉井地域詠讚歌奉詠大会」が、仁叟寺にて開催されました。参加者は各講より50名の講員様が集まりました。御詠歌の講がある吉井地域のご寺院様は、仁叟寺・龍源寺・全林寺(以上、曹洞宗)・恩行寺(天台宗)の4ヶ寺です。宗派を超え、同行の皆様が詠讚歌を相互に奉詠し披露する大会であり、参加された方々より、是非続けて欲しいとの声も上がりました。恩行寺講では舞の披露もあり、参加された皆様にとりましても有意義な大会であった事と思います。

祝寿 東堂老師御夫妻米壽 住職老師御夫妻還暦

仁叟寺前住職の渡辺隆司東堂老師が、昨年12月27日をもちまして、数えて米壽(88歳)となりました。奥様のテル様も今年3月10日に揃って米壽を迎えられます。御蔭様で、御夫妻共に健康であり趣味の園芸や書道など精力的に活動もされております。仁

→ 東堂老師御夫妻



Page 2 叟寺住職渡辺啓司老師と恵津子様ご夫妻も昨年で還暦を迎えられました。益々の福壽康寧を御祈念申し上げます。

仁叟寺研修旅行に参加して 寄稿 向井敏昭氏

昨年11月3日文化の日、「仁叟寺の行事に雨無し」の諺通り、好天に恵まれました秋晴れの中、恒例の研修旅行に大型バス2台82名もの参加を頂き、挙行されました。

定刻通りに出発し、始めに浅草寺参拝を行いました。私にとっては37年振りの参拝でしたが、周囲環境の変化、外国人観光客の数の多さに時代の流れを感じさせられました。

次に、今回の参拝研修旅行の主目的である「大雄山最乗寺道了尊首都圏御開帳」。80年振りの大法要が、両国国技館に於いて



↑ 向井敏昭様御家族の皆様

約4,500人の参加者のもと、盛大に執り行われました。世界恒久平和、現代世相の安寧を願う事を目的として、壮大なる8つの儀式も滞りなく勤められました。石附山主老師の法話や、式典にて大本山永平寺太田老師、大本山總持寺横山老師をはじめ各来賓より祝辞として貴重なお話を拝聴いたしました。



↑ 道了様出開帳祭壇 (於、両国国技館)

引き続き行われた「加山雄三ショー」では、加山氏祖母以降の最乗寺様との関わり、芸名の由来、心の絆等の深さを知りました。また、懐かしいワイルドワンズの出演もあり、楽しい一時を過ごさせて頂きました。加山さんは、とても73歳とは思えない若々しさで、「パワー」を頂きました。

今後の行事は、古い伝統を大切にしつつ、新しい事柄も取り入れていく必要があると思われまます。その為には、真心を持った参加者が大勢参加してくれる事を切に望みます。

最後に、菩提寺仁叟寺様の益々の興隆と、今回の研修旅行に参加されました皆様方の御多幸と御健勝を御祈念申し上げ、まとめとさせて頂きます。

市指定天然記念物「椋の木」枯枝打ち作業報告

9月20日付の上毛新聞の記事を以下、紹介いたします。

「高崎・吉井の市天然記念物 ムクノキ すっきり「空師」の中沢さん 地上20mで枝打ち 仁叟寺」

高崎市吉井町神保の仁叟寺(渡辺啓司住職)で18日、境内にある巨木の枝打ち作業が行われた。高所での作業を専門とする「空師」が地上20mで枝を次々に切り落とした。



↑ 新聞記事 (9/20)



↑ 息を飲む作業風景

枝打ちされたのは、本堂裏にある市指定天然記念物のムクノキ(樹齢約350年、高さ約28m、根回り約7m)。枯れた枝が落下する危険性がある事や枯れて折れた個所から菌が入る事で樹勢が弱まる事を防ぐ為に初めて行われた。高崎市倉賀野町の空師、中沢重雄さん(59)が7月に同寺にある県指定天然記念物のカヤの折れた枝を取り除いたのを縁に渡辺住職が作業を依頼した。

中沢さんは木に長い梯子をかけ、竹竿を使って枝に引っかけたロープを頼りに登った。高い木の上でもロープを使って巧みに移動しながら、枯れ枝十数本をチェーンソー等で次々と切り払った。渡辺住職によると、このムクノキを柄の部分に使ったとされる長刀が同寺に残る。明治維新时期にあった暴動の際に当時の住職が寺を襲おうとした暴徒を一喝した時に携えていたという記録があり、こうした由緒ある木の為に切り落とされた枝は念珠に加工して活用するという。

総代長新年挨拶

明けまして、おめでとうございます

新年、明けましておめでとうございます。

本年は、変化の激し年であることが予測されます。変化が著しい中で、菩提寺に於かれましては、御蔭様で御本尊釈迦如来様、脇侍二体様の修復が三年目を迎え、着々と進んでおります。

また、通常の寺の各行事も順調に滞りなく進められて参りました。これらは、偏に檀信徒の皆様方の御本尊様・菩提寺・御先祖様に対する信仰心と畏敬の念に他なりません。有り難く感謝申し上げます。

昨秋実施されました大雄山最乗寺道了様の首都圏御開帳大法要に参加いたしました。式典中に石附山主老師様が法話で強く述べられました恒久平和、私達の生活の安心と心の安寧を求める教えに、安らぎを覚えて帰郷いたしました。

社会は変化の激しい時期を迎えております。しかも、その内容は必ずしも喜ばしいものばかりではありません。今こそ、人心の安定と進歩が強く望まれます。

昨年は、地域全般に蔓延した新型インフルエンザにより、除夜会・初詣等の行事を若干縮小いたしました。本年は御蔭様で本来の

→井上正俊総代長



姿に戻して実施することが出来ました。関係者各位の御協力は勿論ですが、参詣者の方々と共に喜んで新春を迎えられた事に慶びを感じております。

檀信徒各位の皆様方には、御先祖様を敬い、また菩提寺の護持運営に御理解御協力を賜り敬意を表し、感謝いたします。

皆様方各家御家族御一同様の、御繁栄と御多幸を祈念申し上げます。 合掌

平成23年辛卯元旦

仁叟寺総代人一同

(文責、総代長 井上正俊)



仁叟寺総代人一同

井上正俊	金子 明	関口益雄
篠崎和男	新井徳衛	春山 繁
矢島正義	森 久	堀越兼一

行雲流水 (編集後記)

新年、明けましておめでとうございます。

仁叟寺報「山雲水月」も、今号平成23年新春号をもちまして第30号となりました。平成14年の創刊から、早いもので今年で10年目となります。

私儀、新聞記者を短いながらも勤めまして、その経験を活かす事が出来れば、といった思いで続けて参りました。写真やイラスト等を多用し、見易い紙面作りを心掛けております。今号に於きましては総代長さん、向井敏昭さんに原稿を頂戴いたしました。有り難うございました。ほか、同寺報に関する事が

編集人 副住職 渡辺龍道

ございましたら、是非副住職までご連絡ご提案をお願い申し上げます。

また、拙僧の曹洞宗群馬県宗務所勤務(梅花主事)も昨年末をもちまして四年間の任期を無事終える事が出来ました。お世話になりました関係各位に、改めまして厚く御礼申し上げます。週三日の通常執務の他、行事等が多く、お寺を空ける事が多々ございました。快く?執務に行事にと送り出して下さいました家族に、また檀信徒の皆様方に感謝申し上げます。

合掌 (龍)

